

平成26年度 学校評価表(安来高等学校)

自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数80以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数80未満⇒評価C(不十分)

評価計画						自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策					
校訓	教育目標	重点目標	目標達成のための方策	担当 分掌	評価指標	目標値	評価値	達成 指数	評価	結果と課題	評価		委員からの意見等				
(きびしく自らを律し)	1 基本的な生活習慣の確立と、自主・自律の人格育成	生徒の基本的な生活習慣を定着させ、自主性、社会性を強化し、人格形成に資する文武両道を実現させる	朝の立ち番による挨拶・遅刻防止指導、頭髪・服装検査、登下校交通マナー指導等を通して、規則正しい生活習慣及び校則を遵守する精神を育成する	生徒指導	服装・頭髪・挨拶の指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.2	91.4	B	挨拶は向上したが、身だしなみ意識の低い生徒が若干いる。基準を明確にして、共通理解をもって取り組む必要がある。	B	生徒の挨拶はおおむねよいように感じる。教員の挨拶をもう少し意識して取り組む必要があるのではないかと。	生徒会の委員会での取り組みに力を入れて取り組む。事後のフィードバックを職員朝礼などの場を利用して実施する。				
			諸行事を成功に導くため、生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を定着させる	生徒指導	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じている評価値(生徒・保護者・教職員)	3.5	3.4	97.1	B	生徒は概ね意欲的に取り組んでいる。さらに意欲を引き出すために、生徒会執行部への働きかけが必要と考える。	B	交通安全委員会での街頭指導を実施した。自転車での事故も数件有り、注意の喚起が必要である。	B	挨拶と交通マナーは学校の顔的存在であるので、改善に尽力してもらいたい。	必要に応じて現場での指導を強化する。		
			携帯電話・スマホ・インターネットなどの使用について、生徒の情報モラルを向上させる	生徒指導	一年生対象の情報モラル教室の開催	2回	2回	100	A	校外の講師にまかせず、教員が入学当初に行うことで、ある程度の効果が出たのではないかと。	B	体育祭などを見ると生徒の活気が感じられる。生徒主体の活動は社会で活動する力にもなる。引き続き指導をお願いしたい。	B	入学予定者説明会で直接保護者に理解を求めるとともに、LHRに位置づけ、恵贈的に指導できるように取り組む。	生徒会執行部からの働きかけを寄り工夫するとともに、事後アンケートの成果をもとに改善策を本年度中に作成する。		
			保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	保健相談	スクールカウンセラー事業、生徒支援組織の運営を通して生徒個々に応じた支援体制を充実させる	保健相談	保健室が発する健康情報が参考になると感じている評価値(生徒)	3.5	3.1	88.6	B	SCの利用者数が昨年度より少なかった。周知が不足しているのならば、広報の強化が必要だと考えている。	B	スマホの利用については、大きな問題である。1年生に限定せず、継続的な指導が必要ではないかと。	B	生徒の支援に関する取組の周知は地道に行うことで効果が生まれると考える。数多く情報提供に努めたい。	入学予定者説明会で直接保護者に理解を求めるとともに、LHRに位置づけ、恵贈的に指導できるように取り組む。
			学習記録帳、学習時間調査を踏まえた綿密な面談を行い、2年3学期までに家庭学習の習慣を付けさせる	教務	11月の学習時間調査の結果から1週間の学習時間が1200分を超える割合(生徒)	35%	31%	88.6	B	課題など与えられた学習だけにどまっている状況が見られる。生徒が自立的に学習意欲を育成する取組を全教科で行う必要がある。	B	学習習慣は社会での活躍の源である。なかなか難しいと感じるが、努力してほしい。	B	各教科の重点目標を「自立的な学習態度を育む」として、全教員の課題として取り組むこととしている。	各教科の重点目標を「自立的な学習態度を育む」として、全教員の課題として取り組むこととしている。		
	2 自ら学ぶ態度の育成と、学習指導の充実・強化	授業を充実させるとともに生徒に自学自習力を付けさせ、確かな学力を獲得させる	放課後の学習環境を整え、自主的な学習を醸成する(寺子屋、無号学習室の活用)	教務	放課後の学習環境を整えたと感じた評価値(教員)	3.5	2.9	82.9	B	無言学習室、寺子屋などの設備の整備が完了したが、部活動などの関係で利用者の増加が十分ではない状況である。	B	寺子屋などの設備は有用なものだと感じている。試験期間中など重点的に取り組む時期をばきりさせて取り組まれたらどうだろうか。	B	小テストや課題への取組が不十分な生徒に対しては、部顧問と連携し、部活動に優先して取り組む。	小テストや課題への取組が不十分な生徒に対しては、部顧問と連携し、部活動に優先して取り組む。		
			学習時間調査や定期試験、課題テストの結果を部活動顧問と共有し連携を図る	教務	部顧問と共有できたと感じた評価値(教員)	3.3	2.3	69.7	C	生徒の自立的な学習態度を育むためには、部顧問の理解が不可欠であるが、十分でない状況である。改善に取り組んでいきたい。	C	同じ学校内のことなので、意識して取り組んでほしい。	C	校務支援システムを利用し、生徒の課題の提出状況などが把握できるよう取り組む。	校務支援システムを利用し、生徒の課題の提出状況などが把握できるよう取り組む。		
			主体的な学習態度を育成する	教務	十分な学習時間が確保されていると感じた評価値(保護者)	3.3	2.7	81.8	B	学習時間調査の結果を反映した保護者の評価となっている。学校への信頼感を高めるためにも、学習時間の確保に向けて力を注ぎたい。	B	学習習慣は社会での活躍の源である。なかなか難しいと感じるが、努力してほしい。	B	各教科の重点目標を「自立的な学習態度を育む」として、全教員の課題として取り組むこととしている。	各教科の重点目標を「自立的な学習態度を育む」として、全教員の課題として取り組むこととしている。		
			各種行事を成功させるため、生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を支援する	生徒指導	生徒の主体的な活動に支援していると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.1	88.6	B	学年部の企画を新たにしたが、生徒が主体的に取り組む、盛り上がりを見せたことが評価につながったのではないかと考えている。	B	生徒が充実感を感じている姿は地域から見ると頼もしく思える。より充実されることを期待する。	B	生徒に見通しをもたせ、短期間の準備期間で知恵をしぼる環境のもとがんばらせた。	生徒に見通しをもたせ、短期間の準備期間で知恵をしぼる環境のもとがんばらせた。		
			部活動顧問と連携し、生徒が学習との両立を目指すことができるよう支援する	生徒指導	文武両道を目指した学習指導や部活動指導が行われていると感じている評価値(生徒・保護者・教員)	3.5	3.1	88.6	B	肯定的な意見が多く見られたが、学習への取り組みに不満を感じている保護者の意見もあり、両立にむけ、部顧問と担任などとの連携を図る必要がある。	B	野球などの活躍を地域は注目している。勉強との両立は難しいことではあるが、できることから取り組む必要があるのではないかと。	B	課題テストのスケジュールを教職員全員が把握し、めりはりのある部活動を実施したい。	課題テストのスケジュールを教職員全員が把握し、めりはりのある部活動を実施したい。		
(目標と信念を高く持ち)	3 ハイレベルの文武両道。目標高く邁進する生徒と教師	部活動加入率を向上させ、地域と連携した活動と上位大会出場を推進する	生徒指導	部活動に加入している割合(生徒)	95%	90%	94.7	B	全体的にも高い数値となっているが、部員数が少なく活動の継続が難しい部も出てきている。	B	部活動は学校の魅力アップに大切である。指導者の確保が大切だと思うので、外部指導書の活用を継続的にかんがえられたらよいのではないかと。	B	昨年度部活動再編方針を定めたので、方針にもとづき、適正な部活動数を保ってほしい。	昨年度部活動再編方針を定めたので、方針にもとづき、適正な部活動数を保ってほしい。			
		上位大会出場数(男女)(全国総体・国体・全国選抜)	生徒指導	強化指定競技以外の男子ソフトボール部や、新聞・日本文化・写真など文化系の部活動が検討してくれている。	15	12	80	B	成果を効果的に広報する必要があるのではないかと。	B	大会成績をHPIに迅速にアップし、広報に努める。	大会成績をHPIに迅速にアップし、広報に努める。					
		人権意識を基盤とした個に応じた進路保障を推進する	進路指導	個に応じた進路指導がされていると感じている評価値(生徒・保護者・教員)	3.5	3.1	88.6	B	面接指導、小論文指導など個別指導を教職員の協力のもと実施できたと考える。開始時期についてはもっと早くに取り組んでいきたい。	B	きめ細かな指導は、市外の学校に比べても有効であると思う。このような活動こそ広報が必要である。	B	補習に自学時間を設けて、自立的な学習態度醸成に取り組むこととしている。	補習に自学時間を設けて、自立的な学習態度醸成に取り組むこととしている。			
		保護者、地域、大学等との連携によるキャリア教育の充実させる	進路指導	キャリア教育が進路決定や文理選択に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.2	91.4	B	県外大学見学などを新たに行い、生徒の意欲高揚につながったと受けとめている。	B	地元企業の理解も大切ではないかと。	B	地元企業を理解する機会も計画していく。	地元企業を理解する機会も計画していく。			
5 生徒の学力向上と教員の指導力・授業力向上	授業を充実させるとともに生徒に自学自習力を付けさせ、確かな学力を獲得させる	公開授業(互見授業)や生徒による授業アンケートを実施し、自己研鑽する機会を設ける	教務	2学期授業アンケートの評価値(生徒)	3.5	3.3	94.3	B	1学期と比較して2学期には評価が向上している教員が多く見られた。	B	生徒の評価をえることは重要である。加えて中学校や他校の先生の参観も有効ではないかと。	B	わかりやすさだけでなく、生徒が考える授業作りに取り組めるよう教科会の目標設定を行う。	わかりやすさだけでなく、生徒が考える授業作りに取り組めるよう教科会の目標設定を行う。			
		各教科、分掌との連携による基本的な学習習慣の定着させる	進路指導	個々に応じた適切な学習指導ができていないと感じている評価値(生徒・保護者・教員)	3.5	3	85.7	B	昨年度より早い時期に検討会を行い、生徒への返しも行えたと思う。模試の分析については十分に行えなかった。	B	担任だけでなく大変だと思う。早い時期の検討会は効果的だと考える。	B	検討会の成果を生徒保護者への的確な返しを学年部で行っていく。模試分析については、教科主任会を利用し、定期的に行う。	検討会の成果を生徒保護者への的確な返しを学年部で行っていく。模試分析については、教科主任会を利用し、定期的に行う。			

6 確たる人権尊重の意識を持ち、自らを大切にし他者を思いやる心の育成	自他を尊重する生徒の育成「美しい人間性と人間関係の形成」	生徒一人一人が自己肯定感を持って学校生活を送れるように、全教職員が共通理解を持ち、適切な指導・助言を行う	人・同 教推	人権を尊重する意識を育てる指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.1	88.6	B	評価は比較的高いが、教職員の組織的な活動については、取り組みが十分でないと考えている。	B	人権意識は人間関係の根本である。学校の取り組みをお願いしたい。	主任を図書情報部に位置づけ、組織的な活動となるよう改編する。
	生徒、教職員の人権意識を高め、地域との連携を深める	人権・同和教育に関するLHRと校内研修を開催し、個々が自分の在り方を振り返る機会を設ける		学校活動で人権を意識して行動する場面があったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.2	91.4	B	発達障害など教員研修を実施し、教員の資質向上に努めている。	B	同上	計画的に研修を実施していく。
		地域の実態を理解するために、小・中学校、行政を含む地域社会との情報交換、交流に努める		小中学校や地域での勉強会に参加した教員数	16名	7名	43.8	C	年度当初の計画に届かなかった。働きかけを強めていきたい。	C	小中学校での学習を踏まえることはよいことだと考える。継続は大変だろうが効果は高いのではないかと。	C
7 開かれた学校作りと家庭及び地域連携	開かれた学校づくりに向けた広報活動の充実	HP・文書により学校の情報を効果的に発信する。	HPの月の更新数	15	15	100	A	計画通り実行できた。	A	まだ確認していないので、見てみたい。	大会結果などすぐにアップしないと効果がない。迅速なアップに取り組む。	
			本校からの文書連絡は、保護者に届いていると感じている評価値(保護者)	3.5	3.14	89.7	B	HPに文書をアップし、保護者が確認できるよう努めているが、効果については把握していない。	B	小中でも話題にあがっている。メールの活用を考えたらどうだろうか。	メールは緊急時を想定している。文書のわかりやすさ、適切な発行時期に努めていく。	
			奨学金制度の情報提供が適切に行なわれていると感じている評価値(保護者)	3.3	2.98	90.3	B	生徒を通じての説明であり、保護者に伝わりにくい状況はある。担当者名もはっきり保護者に伝わっていないのではないか。	B	説明機会を複数回準備していただけるかと助かるが。	3年対象の説明かを全校対象とし、説明機会を確保したい。	
	PTA・中の海会・その他諸団体との連携による学校教育に対する信頼の醸成	PTA諸活動の内容を検討し、広報活動を通してPTA会員に理解を求め、会合や各種活動への参加率を上げる	PTA総会の出席率(保護者)	50%	37%	74	B	参加を増やすために、公開授業・講演会を加えたが、出席率向上につながらなかった。	B	以前からの課題である。会員の働きかけが大切だと思う。	役員会の意見をもとに、内容の簡素化を図り、取り組んでみたい。	
			PTA清掃ボランティアの総参加者数(生徒・保護者・教員ほか)	120名	105名	87.5	B	清掃ボランティアはテスト期間中と重なり、昨年ほどの参加者がなかった。	B	PTAの考えを聞きながらおこなったかどうか。	役員会の意向をもとに時期、内容を決定していきたい。	
8 豊かな情操の涵養と、環境美化意識の徹底	保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	朝の健康観察・欠席者集計による生徒の状況把握と教職員への情報提供を徹底する	保健相談	健康診断や保健室利用が、健康の保持・増進に有効だと感じている評価値(生徒)	3.5	3.3	94.3	B	計画通り実施できている。	B	引き続き取り組まれることを期待する。	サポート委員会を有効に活用していきたい。
	図書館利用のための広報活動の強化	全教職員の協力を得て、広報紙を作成する	図書情報	図書館の広報が有効だったと感じている評価値(教員)	3.5	3.3	94.3	B	計画通り発行できた。	B	読書は一生の楽しみとなる。工夫をしてもらえるとうれしい。	来年度はビブリオバトルで全国大会を目指したい。
	校舎と校地の安全・安心な環境づくり	危険箇所を察知し早急な処置を行い事故などを発生させないため、日常の見回りや天候を行うとともに、安全点検などをもとに修繕計画を立て施設整備の修繕を計画的に行う。	事務	人身事故発生件数(生徒・保護者・教員)	0件	0件	100	A	学校設備が原因の人身事故は発生していない。	A	老朽化は避けられない。点検が必要ではないかと。	必要に応じて、県に修繕を要求していきたい。